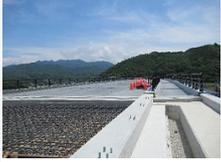


富士橋(建設中)



手すりがつきました!

かけはし

第186号
2023年7月発行

発行：峡南教育事務所
教育支援スタッフ(地域教育担当)

南巨摩郡富士川町鯉沢771-2
TEL:0556-22-8154
FAX:0556-22-8144

HPでも御覧になれます。
<https://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-mk/index.html>



市川三郷町庁舎

教育委員会は1Fです

目次

地推協理事会・総会 異校種連携子育て学習会開催 峡南地域教育フォーラム案内	1
身延中学校 新校舎の梁に寄せ書きをしよう	2
ことぶき勤学院 地域を知る・地域貢献	
増穂南小学校 『学校林活動』	3
増穂小学校・睦合小学校 『砂防移動教室』	
大塚小学校 『防犯教室』 たんぼぼ子どもの家 迫力満点「泥んこ運動会」 ひまわり保育園 『手前みそ作り』 大野山保育園 『魚の解体ショー』	4

令和五年度 峡南地域教育推進連絡協議会 (地推協) 第一回理事会・総会開催

令和五年度理事会・総会

六月一日(木)南巨摩合同庁舎で理事会、七月五日(水)身延町総合文化会館ホールで総会が行われました。令和四年度の事業・決算報告、令和五年度の新役員や事業計画・予算等について慎重な審議が行われ、承認されました。

地推協とは...

地域教育連携推進のための組織であり、異校種連携や地域関連の事業等を幅広く推進する母体となっています。峡南地推協では、地域の連携強化や、学習機会の充実を図る中で、望ましい教育環境・社会環境作りを目指し、教育に関する各種講演会の開催、地域教育情報誌「かけ



塩島 萬夫 会長

令和5年度地推協正副会長(敬称略)

- 会長 塩島 萬夫 (峡南地区教育委員会連合会 会長)
- 副会長 古屋三千雄 (峡南地区教育委員会連合会 副会長)
- 中村 高志 (峡南地区教育委員会連合会 副会長)
- 小林 学 (峡南地区高等学校3校 校長代表)
- 遠藤 快征 (峡南PTA協議会 会長)

はし」や教育相談リーフレットの発行など、様々な活動を行っている峡南地域最大の連絡協議会です。

峡南地域異校種連携 子育て学習会 山梨大学名誉教授 相原正男氏

総会に続き、「発達障害への理解と支援」現代社会に生きる子どもたちの多様性を育む」と題して異校種連携・子育て学習会が開催されました。今年度は、新型コロナウイルス感染症が五類に引き下げられたことを受け、身延町総合文化会館ホールにおいて人数制限を行わず、講師に、相原正男氏を迎え行われました。



Take Home Messageとして

一、社会脳は養育者との愛着形成



取材を通して、マスクを外しての活動や、密?になっての活動が、コロナ前の状況に戻ってきたように感じられます。さて、いよいよ夏本番です!コロナ対策と共に、熱中症対策も忘れずにお過ごしください。

峡南地域教育フォーラムのご案内

8月23日(水) 14:00~

身延町総合文化会館(ホール)

○講演

『教育DXの広がり』

デジタル時代に必要な資質・能力』

山梨大学 教育学部 准教授

三井 一希 氏

- 二、脳の多様性の観点から発達障害を捉え直す
 - 三、その人のセルフトークの質がその人の人生の質
 - 四、このころの階層の視点から子どもを育てる
 - 五、教える人は教えてもらわなければ教えられる人
- 育てる人は育ててもらわなければ育てられない
という言葉で内容を振り返り、学習会が終了となりました。

身延中学校新校舎の梁に 寄せ書きをしよう!

身延中学校の新校舎建設現場において、身延・下山・身延清稜の三小学校の三〜六年生約一八〇名が参加し、新校舎の職員室の梁として使用する予定の、長さ一・一m、幅八五cmの集成材に、名前や夢・目標などを寄せ書きするイベントが行われました。令和六年四月に竣工する身延中学校新校舎は、身延山から切り出した木材等を使用した木造校舎となっております。新校舎に通う子どもたちに建設工事から携わってもらうことで、学校生活はもちろん、中学校卒業後も身延中学校や身延町に愛着を持ってもらいたいという願いを込



下山小学校・身延清稜小学校



身延小学校



身延中学校 只今建設中!

めて身延町教育委員会が企画しました。今後のイベントとして、中学二・三年生を対象とした上棟式や、工事現場見学会と『将来の選択肢を増やすこと』を目的とした、キャリア教育の一環として建設業者からの仕事の紹介や質疑応答など(中学一年生対象)も予定されています。

また、小学校一・二年生は、隣接する給食センター見学会を行うなど、町内すべての小中学生にとって記憶に残る新校舎の建設が、着々と進められています。なお、給食センターは七月六日に竣工式が執り行われました。

ことぶき勸学院だより 地域を知る・地域貢献

ことぶき勸学院では、様々な学びの中に、「地域を知る」や「地域貢献」といった講座があり、峡南教室では毎年、身延山探訪とバラの摘花作業を行っています。

身延山探訪(一年生)

五月一六日(火)、五月晴れの中「地域を知る活動」として身延山探訪が行われ、一年生二七名が参加しました。四班に分かれ、御願所・御草庵跡・三門・五重塔・本堂・祖師堂といった様々な場所を見学しました。身延町ボランティアガイドの方々の説明に熱心に耳を傾けるとともに、疑問に思ったことは積極的に質問し、メモを取るなど充実した時間を過ごすことができました。また、毎月一六日にだけ行われる、十六羅漢御開帳の見学を行い、普段は目にする事ができない迫力ある姿を拝見することができました。日蓮聖人が身延山に入山して七五〇年という記念すべき年でもあり、見学中に多くの僧侶が題目を唱えながら菩提梯を登っていく場面にも立ち会うことができました。感想の中には、



「何回来ても学ぶことがいっぱい。新たな発見がありました。個人的にまた来てみたい。」「といったものが多く、身延山の魅力、日蓮聖人の偉大さなどを改めて感じる事ができました。」

富士川クラフトパーク バラの摘花作業(一・二年生)

五月三〇日(火)、地域貢献活動の一環として、富士川クラフトパークのバラ園の摘花作業を一年生四二名が参加し行われました。

始めに、作業を行う場所や摘花の仕方などを、「山梨ガーデン」の方々に教わり、学年ごとに分かれて作業を行いました。参加した生徒は、普段からご家庭で庭木の手入れを行っている方や、以前、ボランティアとして参加したことがあるといったベテランの方から、今回が初めてという方まで様々でしたが、一枝一枝丁寧にさみを入れ、時間が過ぎるのを忘れて一心不乱に摘花作業を行いました。一時間三〇分程度の活動でしたが、作業前後では、見違えるような景観になり、参加者全員、やって良かったという充実感に満たされていた様子でした。



増穂南小学校「学校林活動」

五月二一日(日)増穂南小学校ではPTAが中心となり「学校林活動」が行われ、児童・教師・保護者・地域の有志の方々など約三〇名が参加しました。この活動は、一一年前に小学校近くの森林が、「学校林」として指定されたことをきっかけに毎年行われてきました。最初の頃は旧道を通って学校林を見学したり、竹林が多かったこともあり、竹細工を創ったりといった活動が行われていました。そして、昨



年度から、現PTA会長(武居さん)がネット記事を見かけたことがきっかけとなり、伐採した木を小学校一年生が使用する教室の机の天板に利用するといった活動が始まりました。昨年度は、二〇一五年の学校林活動で伐採し、乾燥しておいた木を活用し、天板の形に加工したものを、

二月に六年生(現中学校一年生)が古い机の天板との付け替え作業を行いました。四月に入学した五名の児童が使用しています。



今回の活動では

来年度の入学生の天板作りに向けて、樹齢約七〇年、高さ一五m程の檜(ヒノキ)一本を、森林組合の中丸さんが伐

採していただき、参加者全員で協力して木の皮をむきました。その後は、参加者それぞれで、薪割りをしたり、簡易な椅子を作ったり、オブジェを創ったり、

枝や葉っぱの部分を組み合わせて木の家を創ったりと、時間いっぱい木とふれあっていました。また、木の大きさは、日の当たり方によつて変わることや、檜と杉では杉の方が早く大きくなること、檜は、杉に比べ、香りが良い、堅い・水に強い・使いやすいといった特徴があること、皮をむいた木の幹はツルツルとしている、なめてみると甘いことなど、木に関する様々な知識を学ぶこともできました。

参加した児童からは「のこぎりで木を切ったり、木の皮をむいたりして楽しかった。」「薪が割れたのが楽しかった。」「枝打ちをしたり、家を作ったり色々な物が作れて良かった。小さい子どもも集まって、みんなでできることが楽しい。」「という声が聞かれました。武居会長からは、「山にある木は身近なものに使えることをわかってもらえたらいいと思います。」「中丸さんからは、「今後は、木を植えることにも挑戦してみたいです。」「といった声を聞くことができました。



峡南建設事務所河川砂防管理課「砂防移動教室」

国土交通省が豪雨災害の多く発生し始める六月に実施する「土砂災害防止月間」にあわせて、山梨県が毎年小学校高学年を対象に行っている砂防移動教室「みんなで防ごう土砂災害」が、今年度は増穂小学校、睦合小学校で実施されました。毎年、深刻な土砂災害が全国各地で起きている中、「明日の山梨県を担う小学生の皆さんに、土砂災害及びその防止についての理解と関心を深めてもらうことにより、子どもを通じて家庭へ、ひいては地域住民の方々に土砂災害防止意識の高揚を図る。」ことを目的として行われている事業です。峡南建設事務所の職員が学校に訪問して、実習を含めながらわかりやすく説明を行いました。二校の移動教室の様子を紹介します。

増穂小学校では、六月七日(水)に峡南建設事務所から四名の職員が来校し、五年生五七名が、睦合小学校では、六月一六日(金)に同事務所から三名の職員が来校し、五・六年生二八名と保護者三名が学びました。どちらの学校においても、まずは全体で写真や動画を見ながら土砂災害(崖崩れ・地滑り・土石流)とは何かを知った後、それぞれの校区のハザードマップを画面で確認し、避難レベル、避難するタイミング、避難所の場所など、自身や家族の身をを守るための知識を学びました。

その後、簡易雨量計作りと土砂災害実験を行いました。簡易雨量計作りでは、ペットボトルに雨量がわかる目盛りをつける作業をしました。地道な作業でしたが、みんな集中して取り組んでいました。土砂災害実験では、土砂に見立てたビー玉が、上流から下流の町へ勢いよく流れ落ち、模型の家をのみ込んでいく様子に、驚きの声が上がっていました。



また、砂防堰堤や擁壁等を設置することで被害を抑えることに役立っていることも学びました。最後に職員のみなさんは、命を守るために、自宅や居住地域の危険性を知ること、危険を知らせる情報の意味(「避難指示」は、すべての人が安全な場所へ避難する)を知ること、自分は大丈夫ではなく、自分も危ないと考えること、そして、いざというとき、ためらわずに避難することを、呼びかけていました。

児童からは、「模型を使った説明でもわかりやすかった。災害が発生しそうなときは、今日学んだことを思い出して命を守る行動をしたいです。」「や、いつ災害が起こるかかわからないので、家族でも話し合いをしておき、いざというときに役立てていきたいです。」「といった感想が聞かれました。」「

大塚小学校 『防犯教室』

六月一五日(木)大塚小学校では、一年生から三年生の児童一四名が参加し、**緞沢警察署員・スクールサポーター**の方々の協力のもと、**防犯教室(不審者からどうやったら身を守るのか)**が行われました。警察官からの「自分の命や安全は、大人や周りの人が助けてくれるときもあるが、自分で守らなければいけないときもあるので、そのときのために、しっかりと勉強してください」という話の後、**防犯教室**が始まりました。

- ① 不審者という言葉は知っていますか？
 - ② 出やすい場所はどんな所ですか？
 - ③ 声をかけられたらどうしますか？
 - ④ 『いかのおすし』は知っていますか？
- という質問に児童は元氣よく答えていきました。次に、「助けて」と大きな声を出して練習を行い、最後に五つの班に分かれて、学校からの帰り道で不審者に声をかけられた児童が、交番で「何があったのか、どんな特徴だったか」等を書きただけ細かく説明する体験学習を行いました。



1年生だけでチャレンジ



質問にしっかり答えます

「ずいぶん怪しいと思ったらすぐ逃げる」といったアドバイスもいただきました。

スクールサポーターからは、「逃げることも大切だけど大きな声を出すことを忘れ

たんぼぼ子どもの家

迫力満点『泥んこ運動会』

六月五日(月)たんぼぼ子どもの家では、田植え前の田んぼを利用して、毎年恒例の『泥んこ運動会』が開催されました。



がんばるぞー！おー！



ヨーイ・ドン！！



力を合わせて！！

一〇年ほど前に始まったこの行事は、保護者や園児たちにとっても楽しみの一つです。今年も、天候が不順であったために、事前の遊びが十分にできなかったことでしたが、園児ものは、楽しみにしていました。

園児には、宝ひろいと、つなひきの人気が高く、「泥んこの中を走ってヨーヨーがとれて楽しかった。」「泥が暖かくて気持ち良かった。」という感想を聞くことができました。

ひまわり保育園

『手前みそ作り体験』

六月六日(火)ひまわり保育園では、八年前から、食育の一環として毎年行っている「手前みそ作り体験」を行いました。この日は、甲府市の五味醤油(株)から講師を招き、年中児と年長児の一七名と保護者数名が参加し、「甲州みそ作り」を体験しました。

- ・米麴と麦麴を混ぜながらほぐす。
- ・ほぐれたら塩を入れて混ぜる。
- ・大豆と大豆の煮汁をいれて混ぜる。
- ・*大豆を煮る時間が約四〜五時間かか



団子作りは、大得意！



投げ入れる！

長児「くじら組」の一つ一つの行程を、みんなが協力して行いました。「こねるのや、丸めて投げるのが楽しかった。また作りたい。」といった、感想を寄せてくれました。

※できあがったみそは、一二月にすべての園児の家庭に配付予定です。

大野山保育園

『魚の解体ショー』

六月一三日(火)大野山保育園において、三年前から毎年行われている「魚の解体ショー」が、大野区ボランティアの方々の招いて開催されました。

この行事は、魚をさばく所をただ見学するのではなく、年長児が、前日に海の魚に関する事前学習を行い、凶鑑などを使って調べた魚の特徴を、本物の魚で確かめることを一つの目的としています。

始めに、静岡県の内浦漁港で養殖された、約四二cmの真鯛をオーラプロジェクトの方々に輸送してもらい、事前学習で気になったことをルーペを使って熱心に観察しました。次に、園長先生と栄養士の方が食べやすくさばっていく過程で、様々な部分にさわって、感触を確かめました。そして最後に、切った真鯛を湯引きしてみました。みんなで食べました。同園では、「自分で気づき・考え・調べる…答えを言わないかわりを大切に、園児たちが主体となって様々なことを身につけていけるよう、工夫がなされています。園児からは、「うろこがツルツルしていた。歯が小さかった。食べてみたらおいしかった。」といった感想が聞かれました。



ルーペを掛けて観察！



さわってみる！



みんなを誘致！！